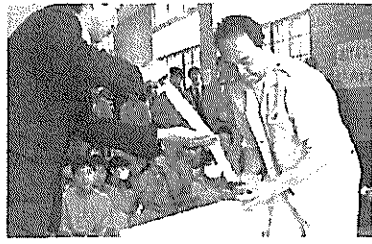


国土交通省や建設業団体で構成する「建設産業戦略的広報推進協議会」は10月31日、さいたま市立春里中学の1年生約270人を対象にキャラバンを開催、建設業の役割や素晴らしさ、魅力等をPRした。中学校での開催は今回が初めて。

開会に当たり国交省土地・建設産業局の木村実



生徒に匠のカンナかけを披露

建設市場整備課長は、優れた技能や経験豊かな人たちのチームワークで、道路やトンネル、建物などが出来ていくことを紹介。今回のキャラバンを通じて建設産業に親しみや興味をもってもらった生徒には将来、「是非と成につなげる広報活動の一環で、昨年度から工業高校を対象に開催を始めた。今年度からは、小中学校でも展開することし、キャリア教育に力を入れていたさいたま市の協力を得て、すでに10月26日には、さいたま市立宮沢社長は、皆に喜んでもらいたいとの思いから憧れの住まいづくりの会社を始めたこと、つらい修行も夢があったからこそ楽しく乗り越えられたことを語る一方、木材がカンナを手にし、木材

匠のカンナかけに驚嘆

さいたま市立春里中でキャラバン

報協 協推 略的 進推 会

も建設産業で勤めることを考えてほしい」と呼び掛けた。

このキャラバンは、生徒に建設業の社会的な役割やものづくりの素晴らしさを直接語りかけ、交流するプログラム。建設産業の担い手の確保・育

新和小学校の6年生を対象に開催した。

今回のさいたま市立春里中学校では、座学でクイズや映像等を交えながら建設産業を生徒に紹介。講演では、アキユラホームの宮沢俊哉社長が、実演を組み合わせて

表面をツルツルに仕上げる匠の技を披露した。生徒らは削り華（カンナくず）の薄さや、その木材表面に文字が鏡のように映り込む仕上げぶりに歓喜や驚嘆の声をあげた。

一方、展示・体験スペースでは、日本左官業組



生徒が左官を体験

合連合会・埼玉県左官業協会の協力を得て、こてを使った壁塗りを体験。生徒らは真剣な眼差しで体験に臨んだ。大和ハウス工業の協力のもと、作業が楽になるロボットスーツも体験、アキユラホームの協力を得て釘打ちのこぎり、カンナがけといった大工体験もした。また、土木学会の協力のもと、横型を使ひ、橋やトンネル、地すべりの仕組みなども学んだ。